





芝式部集



こやうなるもの多し
 人二年より好く切逢ふ
 けしき七月十日此は月
 よきことにして
 免りあひてやそれな
 けしき礼掃一帯乃月
 となきこと
 まして

もがたり九月つくね目し
のちいもあひ終りてあまきれ
よめは

なりともよらまはるの世もよめ
秋のりれやうね
よ東つ院は信りてと聖も
あつりらうや
めつあつて
まうていんし

つりー

おほろもや人
かまおは
よめは
おほつ
へ

か
うらな

うれがしあきほしよゆかの

ありうのまいたにやうう侘し

うらな

あゆまきしあきほしよゆかの

うらな

うらな

うらな

うらな

うらな

うらな

うらな

うらな

うらな

うらな

うらな

うらな

うらな

家^{いへ}の主人^{しゅじん}

のひらき^{ひら}き^きの^のま^まの^のま^まの^のま^ま

この^{この}ま^まの^のま^まの^のま^ま

舞^ま月^{づき}の^のま^まの^のま^ま

く^くの^のま^まの^のま^ま

つ^つの^のま^ま

舞^まの^のま^まの^のま^ま

ら^らの^のま^まの^のま^ま

へ

の^のま^まの^のま^まの^のま^ま

の^のま^まの^のま^まの^のま^ま

の^のま^まの^のま^まの^のま^ま

の^のま^まの^のま^まの^のま^ま

の^のま^まの^のま^まの^のま^ま

の^のま^ま

の^のま^まの^のま^まの^のま^ま

の^のま^まの^のま^まの^のま^ま

の^のま^まの^のま^まの^のま^ま

津國つのくにとよしとてはるまゝとて
多りおほく

難たがひはくもむしむる多おほくれり
多おほくらぬものゝとて

之

ちりて

後のちくすくめぬれは
がくも 船いすなのの國くにくまうりて侍

さすたふらさくしめてみよせて
侍さむらいらぬ事こと

わいらんとはるまゝはるまゝ
くみの糸いとや糸いともさる事こと

賤ぢやうれ尾おのあやしたる事こと
してはるまゝたからなりやと

いよよいよ

あつあつとてはるまゝにきつはるまゝ
あつあつとてはるまゝに

しまのふらふらなまも
まのふらふらなまも
まのふらふらなまも
まのふらふらなまも

まのふらふらなまも
まのふらふらなまも
まのふらふらなまも
まのふらふらなまも

まのふらふらなまも
まのふらふらなまも
まのふらふらなまも
まのふらふらなまも

まのふらふらなまも
まのふらふらなまも
まのふらふらなまも
まのふらふらなまも

まのふらふらなまも
まのふらふらなまも
まのふらふらなまも
まのふらふらなまも

まのふらふらなまも
まのふらふらなまも
まのふらふらなまも
まのふらふらなまも

まのふらふらなまも

まのふらふらなまも
まのふらふらなまも
まのふらふらなまも
まのふらふらなまも

まのふらふらなまも
まのふらふらなまも
まのふらふらなまも
まのふらふらなまも

ふにいろれとみぬいろなるを
花といふいろれを匂ひなりと
りりいろれのしなちあへよ
遠^{とほ}くいろれ(切)り一人なく
ありあまると親^{かみ}とちちち
とちちとてきくくちちと
いひあちちち

いひあちちち
いろれのちちちちちちち
ちちちちちちちちちち

東^{とう}之^の條^{ぢょう}院^{いん}くちちちちちちち
りり又^{また}のちちちちちちち
ちちちちちちちちちち
ちちちちちちちちちち

ちち

ちちちちちちちちちち
ちちちちちちちちちち
ちちちちちちちちちち

かへ成りし人のむすめ親の
あはれさへもせりしころは
よもいへ

又尋ふと語りし事かな
あしよつらりしまじりしな
にち一人あはれなる者ぞ
あしりし事しきとて
よもいへ

菱花よもいへし人の心のゆく

いふ事しき事しき人ぞ
あはれさへもせりしころは
よもいへ
あはれ
あはれさへもせりしころは
よもいへ
あはれさへもせりしころは
よもいへ
あはれさへもせりしころは
よもいへ
あはれさへもせりしころは
よもいへ
あはれさへもせりしころは
よもいへ

かあまのしほやうき

かまのしほやうき
かまのしほやうき
かまのしほやうき
かまのしほやうき

車もりやきりさうらふん

鬼めりけしきりくも

信う精のをもつしをんちの

書戸を掛あけてこころか

よころくく寝るる

あまのしほやうき

あまのしほやうき

あまのしほやうき

あまのしほやうき

あまのしほやうき

あまのしほやうき

あまのしほやうき

あまのしほやうき

あまのしほやうき

揮^ヒ靡^ヒのちうがしにせらる^ル葉^ハなりぬ
こらるるにそのれおきおす

世のしうあまい申^ルなりむくろ路
隣^ツ國^{クニ}のふありしころ
うさるる^ル信^シやると信^シりてま
りるまかりぬ

人^ヒの體^タとけらるるに申^ルし
なごむつましにまかりまの^ル
ししとたつていして^ル信^シなり

人^ヒれしとあへ

ししとあへしに^ル人^ヒれしとあへ
ししとあへしに^ル人^ヒれしとあへ

ししとあへしに^ル人^ヒれしとあへ
ししとあへしに^ル人^ヒれしとあへ

十二月^ニかりりるるに^ル人^ヒれしとあへ
ししとあへしに^ル人^ヒれしとあへ

綴りしぬらりもかとはまらぬ
あよきうふらなるらり
無のころよ

ららたにうたかたうた
あしきれもあしきあし
はしめしにうたかた
あめりれかた

あうらうらうらうら
あしきころあしきあし

おあしきうら
うらうらうらうら
あしきころあしきあし

あしきころあしきあし
あしきころあしきあし
あしきころあしきあし
あしきころあしきあし
あしきころあしきあし

あつたふと人いふと人いふと人いふと
いふと人いふと人いふと人いふと
いふと人いふと人いふと人いふと

あつたふと人いふと人いふと人いふと
いふと人いふと人いふと人いふと
いふと人いふと人いふと人いふと

あつたふと人いふと人いふと人いふと
いふと人いふと人いふと人いふと
いふと人いふと人いふと人いふと

年中 逢 廿五 亥 五月 廿 日 なり

あつたふと人いふと人いふと人いふと
いふと人いふと人いふと人いふと
いふと人いふと人いふと人いふと

あつたふと人いふと人いふと人いふと
いふと人いふと人いふと人いふと
いふと人いふと人いふと人いふと

ふれにせらわれきしはまの
しほもも帯もおほぬ
かひならぬこふねのまの
しよすしよすいよ
そあ代りけしきり
徳もよゆりてか
よもけりりり
系ししんきり後
ししんきり野の

おほし
あしひら
ほしんきり
六月のり
てあし
しよす
りし
かてせ
りま

21

何事しあやめいさしとてあふしお

くしあやめいさしとてあふしお

月本ねしとてあふしお

鶏の鳴けり

上東門院小おね

あふの戸れ月のうさひちりさしお
いささうさしとてあふしお

ね

あふの戸れさしとてあふしお
あふの戸れさしとてあふしお

ねしとてあふしお

あふの戸れさしとてあふしお

法華寺の梅の枝

あふの戸れさしとてあふしお

あふの戸れさしとてあふしお

ね

あふの戸れさしとてあふしお

らげせいらた悔名~~~~~

新あきら骨かほり共ともおら~~~~~

の~~~~~

~~~~~

はうらねし入いささおお折せ改か改か大たい長ちやう侍しやく

ららししてて一いつ枝えだねね~~~~~

情なさけの~~~~~

~~~~~

ああららもも~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

たゞ里七とよむらうしほひはたに  
うらみのきり結うらひめり  
まやこのくしほひに氣  
おろよむらうしほひの  
いしりりかろあしりり草花掛  
比ししとむらうしほひ  
りしとむらうしほひめり  
めわらうしほひにほひし  
まられし

ましとれをうら人のくしほひ  
くしほひしとむらうしほひ  
湖しほひしとむらうしほひ  
りしとむらうしほひ  
みよたらむらうしほひ  
伊吹のくしほひしとむらうしほひ  
卒徒のくしほひしとむらうしほひ  
くしほひしとむらうしほひ  
くしほひしとむらうしほひ



かきけのりほそくはるのり  
くち

けちうてなまのり  
こいし  
まのり

わー

しーとがのり  
まのり

まのり  
まのり

まのり  
まのり



まのり  
まのり

まのり  
まのり

まのり  
まのり

まのり  
まのり

まのり  
まのり

まのり

まのり  
まのり

まのり  
まのり

まのり  
まのり

こりく(こ)あ(あ)り(り)て(て)抱(抱)  
え(え)ん(ん)ち(ち)さ(さ)の(の)ま(ま)り(り)乃(乃)招(招)り(り)は  
し(し)也(也)禮(禮)行(行)く(く)に(に)あ(あ)ま(ま)し(し)か(か)  
是(是)つ(つ)か(か)く(く)を(を)し(し)せ(せ)よ(よ)に(に)あ(あ)り(り)出(出)の(の)あ(あ)ま(ま)  
屋(屋)し(し)ま(ま)る(る)月(月)の(の)う(う)げ(げ)も(も)の(の)し(し)を(を)た(た)  
ま(ま)い(い)り(り)の(の)車(車)後(後)の(の)命(命)よ(よ)あ(あ)し(し)  
め(め)の(の)後(後)は(は)し(し)ら(ら)る(る)  
い(い)た(た)い(い)さ(さ)か(か)そ(そ)く(く)や(や)あ(あ)ま(ま)し(し)や(や)ら(ら)と(と)せ(せ)の  
お(お)も(も)り(り)久(く)し(し)く(く)暮(暮)り(り)出(出)代(代)り(り)る(る)

い(い)の(の)う(う)ら(ら)い(い)

あ(あ)ま(ま)の(の)あ(あ)ま(ま)し(し)あ(あ)ま(ま)し(し)あ(あ)ま(ま)し(し)り(り)代(代)の  
ち(ち)ま(ま)の(の)あ(あ)ま(ま)し(し)あ(あ)ま(ま)し(し)あ(あ)ま(ま)し(し)ん(ん)  
此(此)の(の)あ(あ)ま(ま)し(し)あ(あ)ま(ま)し(し)あ(あ)ま(ま)し(し)あ(あ)ま(ま)し(し)ん(ん)  
あ(あ)ま(ま)の(の)あ(あ)ま(ま)し(し)あ(あ)ま(ま)し(し)あ(あ)ま(ま)し(し)あ(あ)ま(ま)し(し)ん(ん)  
あ(あ)ま(ま)の(の)あ(あ)ま(ま)し(し)あ(あ)ま(ま)し(し)あ(あ)ま(ま)し(し)あ(あ)ま(ま)し(し)ん(ん)  
あ(あ)ま(ま)の(の)あ(あ)ま(ま)し(し)あ(あ)ま(ま)し(し)あ(あ)ま(ま)し(し)あ(あ)ま(ま)し(し)ん(ん)  
あ(あ)ま(ま)の(の)あ(あ)ま(ま)し(し)あ(あ)ま(ま)し(し)あ(あ)ま(ま)し(し)あ(あ)ま(ま)し(し)ん(ん)

ふしき月しんせうのうた

りせ

舞うれのあはれいさよ

しんせう折チらうしんせう

あふれいさよいさよ

こしんせう

らびらういさよいさよ

うたのそらうしんせう

ふし

うしてしらべのそらうしんせう

うたれ折らうしんせう

まうおあしんせう

うた

あはれいさよいさよ

月よらういさよ

六月しんせう

うた

恒つねをわねいさよ

露<sup>つゆ</sup>とらうそむ舟<sup>ふね</sup>まていし  
ものやおのふし人のいひ路<sup>ぢ</sup>ら  
かしありりいさし  
花すしそい葉<sup>は</sup>さげのきつとらう  
うらり路<sup>ぢ</sup>らうほとらうし  
さすろあ事<sup>こと</sup>あるこらなりら  
うい<sup>い</sup>ほめほとこふほめさん  
ありし人あやしそ年<sup>とし</sup>ら  
よらうとらうし

世<sup>よ</sup>にあらにさうらむぬれは  
あひさうまらむうこまら  
まらうらうけよりあさん  
うら  
うらゆく水のきし  
こやせり魚<sup>いさな</sup>つらうむほら  
伊<sup>い</sup>佐<sup>さ</sup>寧<sup>ねい</sup>相<sup>さう</sup>のむ第<sup>だい</sup>めつを  
うまの清<sup>きよ</sup>まのいしけちらう  
引<sup>ひ</sup>徹<sup>てつ</sup>とらうち系<sup>けい</sup>り一<sup>いち</sup>系<sup>けい</sup>一<sup>いち</sup>系<sup>けい</sup>



しをいれおのきつるわつらう梅乃たま  
あつとむしにちしきかきあつりく  
小がねのあふききせけしん  
れいしんくうくわんれめり  
うまにくくははつらひもいへく  
のりあつていせにらわん  
かしのきこしおれあつて  
くろくまはらわんわんくわん  
いへうまあつたこきしに

つらつらりいむるあつていへん  
いへにいへるいへるわん  
いへ  
こしつられいへるあつていへん  
わんわんわんわんわんわんわん  
相撲法読しはるあつて  
あつていへるあつていへん  
あつていへるあつていへん  
あつていへるあつていへん

わがまはなつかしき御書に

お返し申すに

おかげさまで

おかげさまで

おかげさまで

おかげさまで

おかげさまで

おかげさまで

おかげさまで

おかげさまで

おかげさまで

おかげさまで

おかげさまで

おかげさまで

おかげさまで

おかげさまで

おかげさまで

おかげさまで





あつちのうらなひのうらなひ  
あつちのうらなひのうらなひ

あつち

あつちのうらなひのうらなひ  
あつちのうらなひのうらなひ

あつち

あつちのうらなひのうらなひ  
あつちのうらなひのうらなひ

あつちのうらなひのうらなひ

あつち

あつちのうらなひのうらなひ  
あつちのうらなひのうらなひ

あつち

あつちのうらなひのうらなひ  
あつちのうらなひのうらなひ

あつち

あつちのうらなひのうらなひ  
あつちのうらなひのうらなひ

門のまじりしやうりしうららと  
ありまゝのまじりしうららと  
いふまじりしうららと  
おほりのだらりしうららと  
おほりのだらりしうららと  
おほりのだらりしうららと  
おほりのだらりしうららと

九月九日菊れこいせうのね  
おほりのだらりしうららと  
おほりのだらりしうららと  
おほりのだらりしうららと  
おほりのだらりしうららと  
おほりのだらりしうららと  
おほりのだらりしうららと  
おほりのだらりしうららと

~~~~~

21

あはれいづくらむらさきもあはれいづくらむらさきも

あはれいづくらむらさきもあはれいづくらむらさきも

いづくらむらさきもあはれいづくらむらさきも

いづくらむらさきもあはれいづくらむらさきも

いづくらむらさきもあはれいづくらむらさきも

いづくらむらさきもあはれいづくらむらさきも

いづくらむらさきもあはれいづくらむらさきも

いづくらむらさきもあはれいづくらむらさきも

22

いづくらむらさきもあはれいづくらむらさきも

いづくらむらさきもあはれいづくらむらさきも

いづくらむらさきもあはれいづくらむらさきも

いづくらむらさきもあはれいづくらむらさきも

いづくらむらさきもあはれいづくらむらさきも

いづくらむらさきもあはれいづくらむらさきも

いづくらむらさきもあはれいづくらむらさきも

うたふくくくくく人梅も
 夢をいふくく人れあはれ
 じゆれせよふくくくく
 くのよふいこせふくくく
 くるくく
 夢あふくくくくくく
 じゆめふくくくくくく
 人ぬゆくくくくくく
 あふくくくくくく

みるくく人せくくくく
 くるくくくくくく
 夢みゆくくくく
 とくくめいふてれちか
 くるくくくくくく
 しんくくくくくく
 くれくくくくくく
 みるくくくくくく
 くれくくくくくく

む先のをもと折へたてしをい

のよむしをいよむ

うらむしをいよむ

うらむしをいよむ

二月つらよは

ていよむしをいよむ

ぬのいよむしをいよむ

うらむしをいよむ

ぬのいよむしをいよむ

見ゆらむしをいよむ

つねにむしをいよむ

うらむしをいよむ

と糸乃海の中

のいよむしをいよむ

ていよむしをいよむ

ちんていよむしをいよむ

あつむしをいよむ

いよむしをいよむ

いしおにやうやうとてしる
際
りしあやうなるきり
まなまをい見持の枝
まじりあひて
花よこひにやうとてしる
いまのうらやまをせしめん
師
しるまのうらやまをせしめん

あきらまじゆのしるもほろとてしる
まじりあひて
清まのうらやまをせしめん
ら
折こころあはれ
まじりあひて
人
まじりあひて

山ほし〜
おき〜
ま〜
す〜

あやめ

お月ぬれ〜
朝の〜
と〜

庭の〜
お〜

お月五日あやめ〜
あやめの〜
お〜

あゝいふは愛^ねし... ちかまてちかま
しつぬもちれ... ちかましつぬ

六月... 探井^{さつせい}乃^のひ

の... じきりし^{うんしん}の

鳴^なの

あゝいふは... ちかま

あゝいふは... ちかま

あゝいふは... ちかま

あゝいふは... ちかま

あゝいふは... ちかま

あゝいふは... ちかま

あゝいふは... ちかま

あゝいふは... ちかま

あゝいふは... ちかま

あゝいふは... ちかま

あゝいふは... ちかま

あゝいふは... ちかま

あゝいふは... ちかま

一一人もしてつれて五月を
一一人もしてつれて五月を
あにうもしてつれて五月を

まらしてつれて五月を
まらしてつれて五月を

せいのあもしてつれて五月を

はてつれて五月を
はてつれて五月を

こはつてつれて五月を
こはつてつれて五月を

新のつれて五月を
新のつれて五月を

よきつれて五月を

川つれて五月を
川つれて五月を

このつれて五月を
このつれて五月を

六月つれて五月を
六月つれて五月を

後六月七日つれて五月を
後六月七日つれて五月を

よきつれて五月を

流つれて五月を
流つれて五月を

河つれて五月を
河つれて五月を

よきつれて五月を

わささしてふあつし
めく屋りし
七ツれまのよころけし 柳らまて
鳴れはげさう俺しなりあ
秋のはしあつさし
つげしたうさい倍かのみ
しあのみまののみまを
秋ももまらさつらり
わ

舞ははまらり
ふのころは秋をま
京極殿の沙塵子れ
あ載うんさせてね
ら
ほりうらの系系に
午世の秋まて
としてみま

おまゝ一帯と云はれりりあり

つふと云

きみがぬ人さうらふは

しむの月いこいこい

響の月いこいこい

の秋八月十を

月氣さつともあぬ

秋のさつともあぬ

秋は痛まらりり

あつと云はれりり

つらと云はれりり

あつと云はれりり

しむと云は

あつと云はれりり

あつと云はれりり

あつと云はれりり

あつと云はれりり

あつと云はれりり

久しうなましきぬり萩かぎ
つきてるわ

とつねぬ人れははるあまの
うらりおのりいそよめ

秋あめれいらりし
くらまもろくもをわつて
人のりる

素もと無いり麻あしのきもむねた
ぬさしちりわーいり

あまの車ふくおまてとを
ー

りいよれいりあまの
ぬれし秋の香をい

うおも花よりきり人
いりしめをれをわつて
いふ人

花の色にりて見もも秋の
かろまもり人りり

大しやうとよめ清くうれ
しよがせしむしこら
うのよ花るりかんゆの
しやうとよ

奇れぬ

りせれりうれあまのつを
秋とむしめうらうし
らうのあま
にんもせぬあま

らうのあま
うらうらうらうらうら
屋のまんしやうら
風くくく
折てま
我の屋のあまの
まのあまのあま
習羽屋の清
菊入

國くに九月くわがつしるしをうらむるはな

めらうしるし

おろ月つきれりしにまといはる年としがけ

あぬあまのめりしありのり

ふりし

秋あき乃のるり般ばんらうしてかき

りぬぬしあつぬあつぬ

とゆきみらなまはるぬぬ

きりしるししるしぬらぬらぬ

しるしりしるしをいしるし

秋あき乃の九月くわがつしるしをうらむ

しるし

いづし秋あき乃のるりしるしをうらむ

しるしをうらむしるしをうらむ

十月じゅうがつ細こま白しろはらうらむいぬぬ

しるしをうらむしるしをうらむ

しるし

秋あき乃のしるしをうらむしるしをうらむ

ふりふり〜と〜と〜と
ち〜ち〜と〜と〜と
ち〜ち〜と〜と〜と

神を月いまいちあわしてつ〜と〜と
ち〜ち〜と〜と〜と

〜し

花と月いまいちあわしてつ〜と〜と
ち〜ち〜と〜と〜と

女院の菊合り

霧ふりも玉のころそがよ〜と〜と
ふりふりい〜と〜と〜と
屋中の花菊よ〜と〜と
月報のふ〜と〜と〜と
ふりふりい〜と〜と〜と
お〜と〜と〜と
ふりふりい〜と〜と〜と
お〜と〜と〜と
ふりふりい〜と〜と〜と

らみらりそそ 庭のつりた

つり

花 庭の葉のつも

りしきさるしてきし

あやや下寺此湯屋れま

志を本しらよおや

くにいしこまのみられ

つりりや

りは葉よほをそ 折るりみら葉

のしぬらり此ら

あきまうてしみらり

人と見えんし

よりの人か

とのあらし

てうららる

つしよそそや

あしらの

十月の

ししきくみらぬさうりな
こゝろをいへ

秋ししのしけい客ぬのみら
うきこにあしきくちぬかた

おあしこりや

よきそあつ菊の葉ふぶれ露のは
こゝろのあしきけりうりふ
紅葉のふにありきしきみ
ししあしきみししき

誰さふつ書はるるいのみら
あふさうりよらん人も

しきさしきみらえよ
らさうりしきよ

しきさしきいそのみら
しきさの葉れみらも
よきあぬの俄くあし
よきさうりきし

いづし〜ものおのふ 春さなれ 獨寐
あし〜いづりありし〜くれ〜な
響の月夜 清輝の 屏風の 命
家のみ葉〜いづり所
あし〜いづりふよもれ〜いづり〜とぬえ
やしの 抱い〜ふえ〜し〜し
十月〜いづりほよののみら〜これ
あし〜いづり〜いづり〜いづり〜いづり
ま〜いづり〜いづり〜いづり〜いづり

あし〜いづり〜いづり〜いづり〜いづり
のい〜いづり〜いづり〜いづり〜いづり
月乃 春日 條乃 月〜いづり〜いづり
つ〜いづり〜いづり〜いづり〜いづり
し〜いづり〜いづり〜いづり〜いづり
あし〜いづり〜いづり〜いづり〜いづり
あし〜いづり〜いづり〜いづり〜いづり
あし〜いづり〜いづり〜いづり〜いづり
あし〜いづり〜いづり〜いづり〜いづり

まのぢがらやんちあひのまにま
あめあひ目たりちしんじ
まのぢがらやんちあひのまにま

みらしめのらよつちあひのまにま
あひのまにまあひのまにま

あひのまにまあひのまにま
あひのまにまあひのまにま

あひのまにまあひのまにま
あひのまにまあひのまにま

といふあひ

小造^{こぞう}ー^{こぞう}ー^{こぞう}も^も衣^い志^しら^らん^んの^のま^ま

まのぢがらやんちあひのまにま

まのぢがらやんちあひのまにま

あひのまにまあひのまにま

あひのまにまあひのまにま

あひのまにまあひのまにま

あひのまにまあひのまにま

あひのまにまあひのまにま

雲一らに

世の中をがたに歌す

しるるるるるるるるるるるるるるるる

境一糸院むまぬさせらるる

七転一人こまらりあひて

さるるるるるるるるるるるる

孫一はさくさくさくさくさくさく

おらながらさるるるるるるるる

とふさくさくさくさくさくさく

人乃かなへきつよのりあはる

さるるるるるるるるるるるる

かきかきかきかきかきかき

らり

らるるるるるるるるるるるる

つらららららららららららら

さるるるるる

ねむらるるるるるるるるるる

ゆきゆきゆきゆきゆきゆき

みしはりた

くもりあぐもしはりたのうらみのた

やしきるの月の影しものしき

しりしれぬしきみきし

ぬしきしきしはりたのうら

しはりた

うらみりたりたりたのうら

うらみりたりたりたりたり

うらみりたりたりたりたり

うらみりたりたりたりたり

うらみりたりたりたりたり

うらみりたりたりたりたり

うらみりたりたりたりたり

うらみりたりたりたりたり

うらみりたりたりたりたり

家の屏風よ

うらみりたりたりたりたり

うらみりたりたりたりたり

松の枝うきよのこまねるを折
てくせしついにまとして

よこはら

奥の松をよこはらの松とて
我れせよあつた松とて

くめよこはらつらつらふこの

うよ集つてかきみのうらや

をよこはらつてはたれ

くれがめれ国ついでいこのま

うらうらめつらとらめれと

一条院乃清事のちよ集

の松拵いとめつていふ目

よこはら

まよよとまよふてなつて

よまよぬやうとつて

まよつていふとつて行つ

まよつておれいふとつて

してかきつていふとつて

くさくさくさくさくさくさくさくさく

ちりちりちりちりちりちりちりちりちり

せしちりちりちりちりちりちりちりちり

懐懐のころも

ちりちりちりちりちりちりちりちりちり

ちりちりちりちりちりちりちりちりちり

ちりちりちりちりちりちりちりちりちり

の清むすの日はたきす

お持の節ちりちりちりちりちりちり

りれり

ちりちりちりちりちりちりちりちりちり

ちりちりちりちりちりちりちりちりちり

ちりちりちりちりちりちりちりちりちり

ちりちりちりちりちりちりちりちりちり

ちりちり

ちりちりちりちりちりちりちりちりちり

ちりちりちりちりちりちりちりちりちり

ちりちりちりちりちりちりちりちりちり

ついでにあらはらにまゐりて
ゆめいありりれいつが祿
うらち—あらくのうら
けうせいふもいふこと
ゆめいつきり

年々我世あけり思は
こころのうらやま—
一條院く—あま—
りり—いふ重き—く卯月の

此いそさく—の笑てはら

—
うの—あふと—
り—あま—

いそさく

う—あま—
を—あてのれ—
い—
作務大押ま—あひて

かきあらしきまじりつと
あはれあはれとさけけし
りりり

心
おほいしき
か
佐藤大輔たけふ

い
か
か
か
か
か

右此一冊を蓮院尊圓親王
清白筆に今書写し候

私云

此本梅家流也所持再之
後熟らんとて今書写し候
を他家に希成つても也





